



2014 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦 スーパーバイクレース in 岡山

TOHO Racing with MORIWAKI

JSB1000クラス

#104 山口 辰也 予選：4番手 (1' 29"426) 決勝：3位

TOHO Racing Powered by MORIWAKI

ST600クラス

#104 國川 浩道 予選：5番手 (1' 33"265) 決勝：DNF

#83 宮嶋佳毅 予選：24番手 (1' 35"815) 決勝：12位

TOHO Racing+おでんセイーハトープ

J-GP2クラス

#22 鎌田 悟 予選：23番手 (1' 36"222) 決勝：18位

9月27日(土曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ

公式予選

9月28日(日曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ

決勝

開催地：岡山県 岡山国際サーキット (1周=3.703km)

入場者数：8,000人 (土・日合計)

全日本ロードレース選手権はシーズン終盤を迎え、シリーズ第7が岡山県・岡山国際サーキットで開催された。岡山国際は、東広島にあるTOHO Racingにとってホームコース。JSB1000クラスの山口を始め、ST600クラスの國川と宮嶋、J-GP2クラスには鎌田が、併催のCBR250R Dream Cupには中澤寿寛、King of EURO FIGHTER/NKにはチーム代表の福間がエントリーするなど、今年もチームを挙げての参戦となった。



前戦オートポリスでトップから僅差の4位となった山口は、さらに、その差を詰めていこうと事前テストで様々なことにトライ。3番手タイムをマークし、2年振りの表彰台獲得に向けて上々の仕上がりがかと思われたが、問題になっている部分もあり、それを解決する一つの方法として昨年、使っていたスイングアームを投入することを決意。そのスイングアームは、今年の始めに行ったテストでネガが多く使っていなかったものだったが、昨年の岡山では、うまく機能してくれていた。今年からサスペンションはKYB製となっているが、スイングアームの変更がプラス要素になれば、さらにトップとの差は縮まると見ていた。

実際、レースウィークに入ると初日から事前テストのタイムを上回り、その変更は間違っていないことを証明。ノックアウト方式で行われた公式予選では、Q1でマシンセットを詰めていき、Q2で1分29秒426までタイムを縮めるがポジションは4番手と惜しくもフロントロウには並べなかった。しかし、メーカー直系チームの中に食い込んだ走りは驚異的であり、十分評価される結果だと言えるだろう。ST600の國川は、予選は5番手と、まずまずのポジション。宮嶋はマシントラブルが発生してしまい、思うように走れず24番手だった。



決勝日は、清々しい秋晴れとなり、昼には汗ばむぐらい気温も上がってきていた。19周で争われたST600クラスは、國川がトップ争いを繰り広げるものの、9周目のリボルバーコーナーで痛恨の転倒。そのままリタイヤとなってしまう。宮嶋は後方から追い上げ12位でチェッカーフラッグを受けた。J-GP2の鎌田は、18位でゴールした。



そしてこの日、最後のレースとなったJSB1000クラス。山口は、まずまずのスタートを切り4番手につける。トップを走る中須賀選手はスタート直後からハイペースで飛ばして行く。オープニングラップのダブルヘアピン2個目で2番手を走っていた津田選手が転倒。このアクシデントでトップと山口の前を走る高橋選手との差が開いてしまう。早く高橋選手をかわしたい山口だったが、なかなかかわすことができない。その間、トップの中須賀選手は独走態勢を築き、高橋選手、山口、柳川選手の3台が2番手争いを繰り広げていく。2番手争いは、まず柳川選手が遅れ、高橋選手と山口の一騎打ちとなるが、レース終盤には、それぞれ単独走行となり、山口は3位でチェッカーフラッグを受け、2012年最終戦鈴鹿レース1以来となる表彰台に上がった。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「岡山はチームのホームコースなので本当に多くの方が僕たちの応援に来てくださいました。その中で久しぶりに表彰台に上がることができ、よろこんでいただけたのでよかったです。しかし、前回のオートポリスに比べるとトップに離されてしまったので、それは悔しいですね。序盤に高橋選手の前に出ることができれば、もっと中須賀選手の近くにいられたかもしれません。今回は、最終戦鈴鹿となるので、また表彰台に上がれるように努力します」

JSB1000 チーフメカニック 戸井田 剛コメント

「前戦のオートポリスは山口が得意としているコース。勝つことはできませんでしたが、1周だけ最も速いラップを記録しましたし、最後までトップグループを走ってゴールできました。今回は、チームのホームコースということで、最低でも表彰台に上がるためにKYBさん、ブリヂストンさんを始め多くの方のご協力を得てマシンを仕上げていくことができました。3位という結果はよかったと思いますが、もっとトップと勝負できるようにして行きたいです」

ST600 ライダー 國川浩道コメント

「岡山ラウンド、予選5位、決勝転倒リタイヤになりました。応援して頂いている各スポンサー様、ファンの皆様、チーム関係者様からの期待に添えず、本当に申し訳ありませんでした。また、自分自身も残念でとても悔しいレースとなってしまいました。今回のレースでは皆様の期待ももちろんですが、まず自分自身なんとしても勝ちたいという思いが強すぎてしまいました。それがセッティングに関して、合同テストではまずまずの状態だったのにも関わらず、もっと良くなるはず、これではアベレージが足りない、などの勝率を上げたいが為の欲が出て、ウィークでも色々試しましたが思ったほど改善されないままの状態、さらにその事がレースウィーク全体の流れも変えてしまった様に思います。勝てる体制を作っていたのに、それを生かせず全ては自分自身の事と反省しています。しかし、オートポリスでのトラブルからの流れも良くなり、自分自身の調子も良く、さらに実際に勝てる位置にいるからこそ欲求だとポジティブにとらえ、最終戦の鈴鹿では同じ過ちは犯さず、また貪欲に優勝を目指して頑張ります。今回のレースに対しましても、皆様からの多大なるサポートや応援、とても感謝しております。誠にありがとうございました。最終戦も何卒よろしく願い申し上げます」

ST600 チーフメカニック 栗原 理コメント

「今回、チームホームコースとなる岡山で優勝を目指し、國川選手・KYB様と共にマシンセットアップして参りました。マシンのセットとしては、良い方向性に出来たかと思いますが、國川選手のもう少しの要望に応えられなかったかと思われました。朝フリーでの転倒、チームスタッフの懸命な作業によりマシンは修復出来ましたが、決勝9周目に転倒をしてしまいました。各スポンサー様のご期待にお応え出来なかった事、申し訳無い気持ちで御座いますが、気持ちを入れ替え最終戦鈴鹿GPには優勝を目指したいと思えます。各スポンサー様ご支援宜しくお願い致します」

総監督 福間勇二コメント

「先ずは、ご支援ご協力頂いておりますスポンサー様に、心より御礼申し上げます。JSB クラスは、前戦からの良い状態の中でさらにチャレンジをし、ホームコースである岡山で表彰台という良い結果になったと思います。ST600 國川も表彰台を目指し、果敢に攻めていきましたが悔しい結果となりました。次戦は最終戦となりますので、チーム一丸となり全力で挑みます」

株式会社 TOHO

TOHO Racing with MORIWAKI

TOHO Racing Powered by MORIWAKI

担当：野口